姉妹の音の記憶

カフス

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
姉妹の音の記憶

【Ｎコード】
Ｎ２３３４Ｊ

【作者名】
カフス

【あらすじ】
姉はピアノがとても上手い。
だが、もうすぐコンクールも近いという時に軽い交通事故によって腕を強く打ってしまう。

（前書き）

注意：この物語は読み人によっては過度な寒気が生じたりします。
ご了承のうえお読みください。

～♪

とある住宅の一室。
２人の少女。

～♪

そして、ピアノが１台。

～♪

少女の１人、姉妹の姉がピアノの前に座り音を奏でる。
もう一人の少女、姉妹の妹は少し離れて床に座っている。

「・・・・・・やっぱりだめね」
姉が言う。
「そんなことないじゃん、もの凄くいいよ？」
とは言うが妹も以前の姉が奏でていた旋律とさっきの旋律の違いくらいわかる。流れるような音が出ていない。
「大丈夫」
姉はピアノの鍵盤を軽く指で弾くように打つ。短く、レの音が響く。
「自分が一番わかるから」
鍵盤を打った姉の腕は包帯が巻かれている。
「・・・・・・」
妹は言葉に詰まる。やはり嘘は無理か。

「それでも、ほかの人より全然上手だよ」
「うん・・・・・・。でもやっぱり、この腕じゃ反応が遅れるの」
音感がいい者にはそれだけで少し違和感があるだろう。
「次の大会までにこの腕を完治させないと・・・・・・」
姉がそういった時、妹が反応する。そして、やや間を置いて、
「・・・・・・ねぇ、お姉ちゃん」
「ん？」
「いまだけでいいからさ・・・・・・」
「うん」
妹はちょっとうつむき、照れくさそうに、
「いまだけ、私のためにピアノ弾いて？」
「・・・・・・・・・・・あはっ」
姉が笑う。つられて妹も。ただ妹は恥ずかしさからだが。
「あははっ、いいよ、何でも弾いてあげる」
「じゃあさっ、あれ弾いてよ。小さい頃毎日聴かされてたやつっ」

～♪

とある住宅の一室。
２人の姉妹。

～♪

そして、少し古い感じのするピアノが１台。

～♪

１人の少女、姉妹の姉がピアノの前に座り、楽しそうに、緩やかに音を奏でる。
もう１人の少女、姉妹の妹は、姉と一緒にピアノの前に座り、姉の奏でる音になつかしみ、笑う。

（後書き）

初めての短編2作目です。この時点で初めてじゃないと思いますがきっと気のせいです。
書いた後に自分で読み返すと物凄い寒気がするんですよ。
たぶんこういう系の物語は私には向いてません。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n2334j/

姉妹の音の記憶

2011年1月9日05時58分発行